東京聖書学院
Tokyo Biblical Seminary

学院だより

2016年 夏号［合併39号］5月20日発行
発行所／〒189-8512　東京都東村山市廻田町1-30-1
［東京聖書学院］042-391-3076　fax.042-397-7558　郵便振替00190-0-78949
［聖書学院後援会］042-394-8791　郵便振替00170-8-136685

心うちに燃えて

ルカの福音書24章13-32節

東京聖書学院　学院長
錦織 寛
Nishikori Hiroshi

沈んだ心で歩いている二人の弟子たちがいました。しかし、彼らは主イエスにお会いした時に、心が燃えたと言いました。私たちは主に仕えたいと思います。そして主は、私たちが主のお役に立つ者となるために、私たちの心に火をつけて下さいます。

修養生は熱い人たちであってほしいと思う。またそういう思いをもっているから、献身して、大きな犠牲を払って、主に従って行こうとしておられるのでしょう。そして、聖書学院で学ぶ内に、ますます熱心に熱い思いで、主に仕える器になってほしい。自分の弱さ・自分の小ささ・罪深さを知るでしょう。それがなかったら伝道者は無理です。でも、そんなあなたを召し、今もここにいてくださる神さまの恵みによって心燃やされてほしい。

1　十字架と復活の主イエスによって

これまでも、弟子たちは主イエスを愛していました。主イエスのためにすべてを献げてきました。けれども、主イエスの十字架の場面で、誰一人として、主イエスについていくことのできた人はいなかった。それが弟子たちの現実でした。私たちもまた誰もこの弟子たちを責めることはできません。しかし、主イエスはおっしゃるのです。主イエスの十字架は単なる苦難や非業の死ではない。その苦難がなければ栄光もない。主が十字架で死んでくださったのはまさに、神の子を捨てて、自分を救うような罪深い私たちの罪のゆるしのためでした。主イエスの十字架と復活によって罪のゆるしの福音が打ち立てられたのです。

この十字架の救いは私たちに火をつけるのです。主イエスの復活によって、私たちは私たちが宣べ伝えるのは、まさにこの十字架につけられて死に、よみがえられた主イエスだからです。

2　御言によって

第二に、主が彼らの心を燃やしてくださったのは、聖書をひもとくことによってでした。主は聖書を通して今も私たちに語ってくださいます。弟子たちも聖書を知っていたはずです。しかし、主イエスは親しく語り、その意味するところを説いてくださった。この学校は東京「聖書」学院です。そして、皆さんがこの東京聖書学院で、聖書の豊かさを知り、そこにある神さまの恵みに驚き、喜びと驚きをもって、信仰をもって・・・

①御言に聞く人になってほしいと願っています。

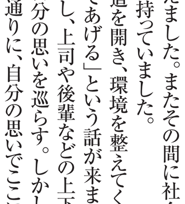
②御言を信じ、従うことによって、必ず、ことごとく成就するその御言のご真実を経験してほしいと思います。

3　聖霊によって

私たちが主イエスの十字架の恵みによって救われ、御言の恵みによって日々生かされていく、でもそれだけでは、いけません。私たちは主から委ねられている福音を語るのです。御霊に満たされて、約束の御霊を与えられて、そこから力をいただき、燃やされて、神の言葉を語るお互いでありたい。知ってください。皆さん、私たちは、十字架・復活の主イエスを見つめていると、神に語られて、御言に聞き、御言を伝えていくと、心が燃えてくる。主はまさにそのような生涯に皆さんを召してくださっているのです。

新入生 献身の証し

二〇一六年は、六名の新入生を迎え、インターン生を含めて合計二六名の修養生でスタートしました。今号では、六名の新入生の入学（献身）の証しをご紹介いたします。



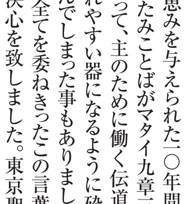
川津 求
Kawatsu Motomu

私は今から約一年前の二〇一四年一二月に、献身を決心し、今年三月に大学を卒業して東京聖書学院に入学致しました。しかしそれまでの私は、様々な理由から恐れを持って踏み出すことができませんでした。それは神学校の入学、在学中などにかかる費用、そして大学に通っている間の奨学金の返済についてでした。この金額を提示された時に出した答えが、もし献身するなら大学卒業後に数年間働き、返済・貯蓄をしていくべきだと考えました。またその間に社会経験を積むこともでき、それから経済面で余裕の出来たころに神学校に行き、聖書の学びをしようとそんな思いを持っていました。

しかし主は道を開き、環境を整えてくださっていました。ある日、「もし卒業してすぐ神学校に行く思いがあるならその費用とこれまでの学費の支援をしてあげる」という話が来ました。さらにある牧師先生から「この業界（教会／牧師）も一つの社会じゃないのかな。私たちもある意味、接待をするし、上司や後輩などの上下関係、報連相も欠かせないけどね」など自分の心の問題や経済的環境が整えられていました。

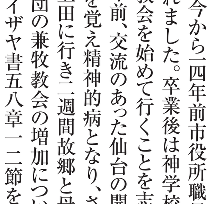
「人は心に自分の思いを巡らす。しかし、その人の歩みを確かなものにするのは主である」（箴言一六章九節）

このみことば通りに、自分の思いでここに立っているのではありません。多くの人の祈りと支えがあり、そして何よりも主が召して下さっていることを確信して遣わされております。



齋藤航大
Saito Kodai

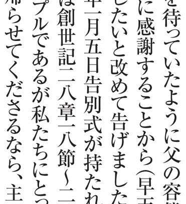
私は小学四年生から高校卒業までの一〇年間、私の母教会が開いているチャーチスクールへ通っていました。ほぼ毎日学校、礼拝、そして様々な活動のため教会に通い、聖書のみことばに触れ、賛美歌を歌い、楽しく勉強することができました。あの頃の生活を振り返りますと、とても神様に祝福と恵みを与えられた一〇年間であったと胸が熱くなるばかりです。チャーチスクールへ入学した年の教会の夏のキャンプで献身に導かれ、与えられたみことばがマタイ九章三七節「…収穫は多いが働き手が少ない。」そしてルカ一九章三四節、「主がお入用なのです。」この二つのみことばによって、主のために働く伝道者になれと示されました。チャーチスクールにおいても、卒業した後の教会献身の間においても、神様は私を用いられやすい器になるように砕いて下さり、整えて下さいました。教会での訓練期間の時に、「私は牧師に向いていないかもしれない。」と思い悩んでしまった事もありましたが、教会の牧師先生の励ましとこの一言、「誰も自分が牧師に向いているなんて思っていないですよ。」という、神様に全てを委ねきったこの言葉に衝撃を受け、神様に委ねきれていなかった自分を悔い改めて、祈りの時を持った後、もう一度主にこの身を捧げる決心を致しました。東京聖書学院に入学した今、主がどのように私を用いてくださるのか、主の御心を求めながら学院生活を送っていきたいと思います。主を愛します。信じます。従います。祈り支えて下さった家族と母教会の方々に感謝します。



佐藤 計
Sato Kei

尊い主の御名を賛美します。私は長野県上田市にてクリスチャンの家庭で生まれ、基督兄弟団上田教会で救いを受け信仰を養われて育ちました。そして今から一四年前市役所職員であった頃にヨハネ一二章二六節に導かれ召命を確信し献身、当時希望していた超教派の神学校への入学が許されました。卒業後は神学校の実習先であった都内の単立教会で牧会スタッフとして働くこととなり転会し、将来はその枝教会としての開拓教会を始めて行くことを志すようになりました。

ところが二年前、交流のあった仙台の開拓教会に訓練と実践のため遣わされた際、リーダー宣教師たちとのチームワーク及び開拓特有の働き方に難しさを覚え精神的病となり、さらに同時期、上田教会役員であった姉がくも膜下出血で突然天に召されるという事が起こったのです。私は直ぐ上田に行き二週間故郷と母教会に留まり、姉の信仰生涯、残された姉の家族、懐かしい母教会の人数面での減少、自らのルーツ兄弟団と兄弟団の兼牧教会の増加について…などを思い巡らしていました。その時から再び兄弟団で仕えることへの導きを覚えるようになり、やがて主はイザヤ書五八章一二節を通し、開拓伝道ではなく破れや傷みを持つ既存の教会のため尽力する道を示して下さいました。そしてその働きをぜひ姉や自分のルーツである兄弟団でさせて頂きたいと願い、精神面の回復後、兄弟団聖書学院の受験さらに二次試験・東京聖書学院を受験し、主の憐れみにより合格の扉が開かれて行きました。こうして基督兄弟団ならびに東京聖書学院修養生となり、日々学ばせて頂いていることを心より感謝しています。

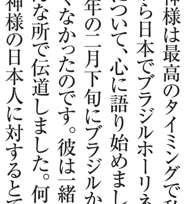


島 恵司
Shima Keiji

二〇〇五年一月三多摩教区新年聖会が東京聖書学院で行われ、講師は小林和夫師でした。私の心を捉えたのは主題メッセージではなく小林師が話された二人の姉妹の証しでした。その証しにより父に対する傲慢さを示された私はいてもたってもいられなくなり、パーキンソン病で闘病中の八王子の父のもとに行き、主に示された私の傲慢さを謝罪することができました。

私の謝罪を待っていたように父の容態は悪化し入院となりましたが、一二月三〇日に召されるまでの一年間は父と一番親しくできた恵みの時でした。主に感謝することから（早天祈祷会）一日をはじめた父は、私にとって信仰の父、アブラハムであると言いました。また、主から召命があれば献身したいと改めて告げました。その時父は涙を流していました。

二〇〇六年一月五日告別式が持たれたあと一月九日の三多摩教区新年聖会に私は参加しました。講師はインマヌエル綜合伝道団藤本満師でメッセージは創世記二八章一八節～二二節からヤコブが父イサクの死後兄エソウから逃れ荒野で主と出会い初めて祈りをささげる。このヤコブの祈りはシンプルであるが私たちにとって大切な祈り「神が私と共にいまし、私の行くこの道で私を守り、食べるパンと着る着物を賜い、安らかに父の家に帰らせてくださるなら、主を私の神といたしましょう。」であるという内容でした。父の死により心を耕されていた私は藤本師のメッセージが心にしみこみ招きの場では何の躊躇もなく恵みの座にでていました。そう、父から「あとは任せた。」と後ろからドンと押されたような気がし、献身の意思を確かなものにしました。



仲野リカルド義広
Nakano Ricardo Yoshihiro

私が初めて教会に行ったのは、毎週行われる日曜学校でした。一〇歳の時、教会のあるキャンプで、主イエスキリストを自分の救い主として受け入れました。そして一三歳で、洗礼を受けました。

年月が経ち、私は通っていた大学を休学し、出稼ぎとして日本に来ました。日本で働き続けて二年が過ぎると私の信仰は、冷えきっていました。しかし、神様は最高のタイミングで私の側に素晴しい人々を送ってくださり、御手に導かれて、神様との関係を回復することができました。

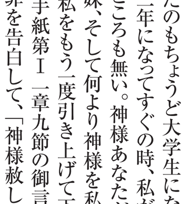
この時期から日本でブラジルホーリネス教会が開かれるようになって祈祷会を行なっていました。牧師の必要性がとても大きかった中で、神様は私に召命について、心に語り始めました。しかし、恥ずかしさと臆病な性格、能力が無いことを理由に私は召命から逃げていました。

ところが今年の二月下旬にブラジルからある牧師が来られました。彼は二週間しか日本に滞在期間がないので、与えられた時間とこの機会を無駄にしたくなかったのです。彼は一緒に伝道しようと私を誘い、そこに、マタイによる福音書六章三三節を示されました。私は、誘いを受け入れ、一緒に色んな所で伝道しました。何人かの日本人に話しかける中で私は、私たちがいるこの国は最重要伝道地であることに気付きました。そして私は、神様の日本人に対するとても大きな愛を感じました。

私は、再び神の召命を開き、神に従う決心をしました。

"そして私たちは、神様を愛し、神様のご計画どおりに歩んでいるなら、自分の身に起こることはすべて、益となることを知っているのです。"

ローマ人への手紙八章二八節



山本 守
Yamamoto Mamoru

私が献身を志したのは大学一年の時でした、と言っても、私は幼い時から父のような牧師になることを将来の夢にしていました。ですから、献身を決めたのもちょうど大学生になったというだけで、そこには神の召命という明確なものはありませんでした。真の召命が与えられたのは私が大学三年になってすぐの時、私が自分の罪の問題で悩んでいた時でした。私の罪は傲慢でした。自分の正しさばかりを追い求め、自分には罪も悪いところも無い。神様あなたが間違っているのだ。そんな愚かなものでありました。それで私は多くの人を悲しませました。家族、教会の兄弟姉妹、そして何より神様を私は悲しませたのです。もう私には救いの道なんてないのだとずっと思っていました。しかし神様はそんな愚かで、醜い私をもう一度引き上げて下さり、キリストの贖いの十字架と聖霊の助けによって救いの道を示してくださいました。その時神様は私にヨハネの手紙第Ⅰ一章九節の御言葉を通して語り掛けてくださいました。私はすぐに父である牧師先生のところに行って今まで犯してきた自分の罪を告白して、「神様赦して下さい。」と告白しました。そしてその時、救いを受けると同時に私は神様からの確かな召命を受けました。『あなたが悲しませた私があなたに与えた愛するものと、私自身に生涯仕えなさい』。私はこの明確な召しを持って、神への全き献身者となることを許され、この東京聖書学院に入りました。神は懇ろに私と歩み、豊かに導き、大いに変革させてくださることを信じ期待しています。謙って従うものに主が変えてくださったからです。　テモテⅡ 一章七・八節

ネヘミヤ・プロジェクト報告

4工事が完成しました！ あと6工事です！ お祈りとご献金を感謝します。

昨年から始まりました工事は、①旧寮改築工事、②本館・チャペル改修工事、③外構工事、④ライフライン工事が完成しました。

そして、⑤職員アパートの工事が始まりました。

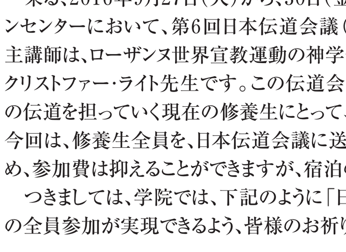
続いて、⑥図書館改築工事、⑦家族寮新築工事、⑧教師住宅新築工事、⑨牧師子弟学生寮新築工事、⑩隠退牧師住居新築工事が行われます。来年3月完成を目指しています。

●引き続きお祈りとご献金をお願いします。

●また、資金調達のために「教団債」へのご協力もお願いします。

お近くに来られた時は、是非、お立ち寄りください。

駐車場



本館ロビー

● 修養生の「日本伝道会議」参加のための献金のお願い

来る、2016年9月27日（火）から、30日（金）まで、神戸コンベンションセンターにおいて、第6回日本伝道会議（JCA6）が行われます。主講師は、ローザンヌ世界宣教運動の神学部門長として活躍された、クリストファー・ライト先生です。この伝道会議の内容は、将来、日本の伝道を担っていく現在の修養生にとって、とても重要な内容だと学院理事会及び教授会は考えております。そこで、今回は、修養生全員を、日本伝道会議に送ることになりました。修養生は、期間中、会場で奉仕者も兼ねる予定のため、参加費は抑えることができますが、宿泊のための経費や、交通費にまとまった費用が必要となります。

つきましては、学院では、下記のように「日本伝道会議参加指定献金」として献金を募ることになりました。修養生の全員参加が実現できるよう、皆様のお祈りと支援をよろしくお願いいたします。

東京聖書学院　理事長　中西雅裕
院　長　錦織　寛

1、目標金額　2016年8月末までに、70万円（学院後援会には、別途30万円の支援をお願いしております）
2、送金先　**郵便振替の場合**　00190-0-78949（東京聖書学院）
（必ず、通信欄に「伝道会議参加指定」とご記入ください）
銀行送金の場合　りそな銀行　東村山支店　普通　0540541（日本ホーリネス教団東京聖書学院）
（銀行送金の場合には、必ず、学院に「伝道会議参加指定」であることの連絡をお願いいたします。）
※なお、目標金額の達成状況は、学院公式ブログにおいて、毎月末に公表する予定です。

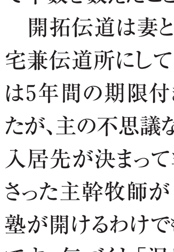
事務局ニュース

● 2005年から11年間に渡って伝道学を講義してくださった、榊原寛先生が、昨年度をもって退任されました。

● 今年の牧師研修会は、6月27日（月）から29日（水）まで、学院の卒業生で、日本イエス・キリスト教団福岡教会牧師、関西聖書神学校講師の横田法路先生をお迎えして行われます。テーマは「イエスの共同体の神学――これからの教会形成への聖書的視点」です。たくさんの牧師や勧士の皆さんのお申込みをお待ちしております。

● 今年度の信徒コースも、すでに始まっております。充実した内容になっておりますので、各教会に配布されている案内チラシ等をご覧の上、お申込みください。通学受講だけでなく、通信受講や、教材のみの購入も歓迎いたします。

卒業生・OBのページ　思い出と期待と



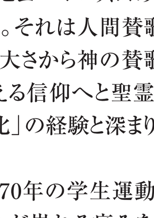
単立　若葉台いずみ教会牧師
長谷川　義朗

「卒業して何年になりますか」。評議会で在学中に舎監をしておられた石原潔先生とお会いし、その時はじめて学院を離れて20年になると気づきました。教団外出身の私は卒業後、母教会に招聘され、4年後に開拓伝道に飛び込みました。以来、無我夢中で年数を数えたことがありませんでした。

開拓伝道は妻と二人、賃貸マンションの一室を自宅兼伝道所にして始まりました。母教会からの支援は5年間の期限付き。知人も教会員もいない街でしたが、主の不思議な導きと御言葉の約束がありました。入居先が決まって準備開始という頃、心配してくださった主幹牧師が「どうやってやるつもりだね。君は塾が開けるわけでもないだろう」と。確かにその通りです。気づくと「泥臭くやるほかありません」と答えていました。それ以来、泥臭くを自分自身に何度も言い聞かせて来ました。今は会堂が与えられ、30名を超える群れとなっています。

あの時「泥臭く」と答えられたのは、学院での学びと訓練、そして、授業の合間に伺った先生方の生きた伝道牧会談があったからだと思います。ある先生は今も礼拝前に高齢者の送迎をしていると話され、ある先生は働きながら開拓をされた証し。ある先生は召された者の光栄と責任を熱く語り、ご高齢の先生は文字通り、ホーリネスを見せてくださいました。学院での訓練を心から感謝しています。

早いものでもう42年



福音シオン柏教会牧師
下瀬　隆司

すでに他の神学校の入学を決め、願書も提出していた私は、或る教会の聖会で語られた小林和夫師の説教録音を聴きました。その説教はガラテヤ人への手紙3章から「のろいとしての十字架」でした。そこに神様の導きを受け止め、私は願書を取りさげ、学院に入学いたしました。

学院での4年間は、自分のヒューマニズムの信仰が剥ぎ取られる日々でした。それは人間賛歌、人間尊重、人間の信仰の偉大さから神の賛歌、神の尊重、神の偉大さを讃える信仰へと聖霊の取り扱いを余儀なくされ「聖化」の経験と深まりに至りました。

学院在学中に、母教会が70年の学生運動によって役員会が崩壊し、教会が崩れる痛みを抱え込んでしまいました。一人ひとりの誰もが純粋で一所懸命なのに、何故、という問いに答をだすには私はあまりにも未熟でした。その後「教会」について苦しむことになりました。今日の言葉でいうと「そのままでいい」、「ありのままでよい」、「あなたは素晴らしい」という人間性肯定が十字架の主イエスによる罪の贖いなしには肯定されないという大事な事に気づきました。その喜びを伝える説教の源が学院の4年間となりました。良き教授陣に恵まれ、貴重な学びの日々でした。

今日ある事を心から感謝して。

東京聖書学院を支えてください！ 祈ってください！

① **まず祈りによって、支えてください。**

② **後援会の会員になってください。**
「入会案内」に記入して郵送またはファックスでお送りください。
また同封の振込用紙で献金して下さると会員として登録されます。会員になるとニュースレターや祈祷カード、カレンダーなどが届けられます。

③ **献金してください。**
継続的に献金して、聖書学院を支えてください。同封の赤い振込用紙で郵便局から振り込んでください。現金でなくご自分の郵便口座から直接振り込んでくださると手数料が節約できます。「自動払い込み」をご利用いただくと、その都度郵便局に行かずに済みますので便利です。

④ **教会に「後援会の世話人」を決めて下さい。**
後援会から送られてくるニュースレターやカレンダーなどの取りまとめや配布をして下さる信徒の方がいて下さると牧師先生も聖書学院後援会も助かります。

⑤ **ネヘミヤプロジェクトへ献金を！**
後援会の振込用紙で聖書学院の改修工事であるネヘミヤプロジェクトへの献金を指定できます。

献金者御芳名

尊いご支援を心より感謝を申し上げます。

東京聖書学院後援会
（二〇一五年四月一日～二〇一六年三月三一日）

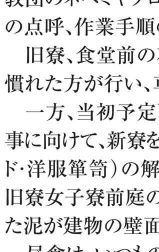
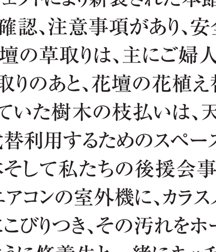
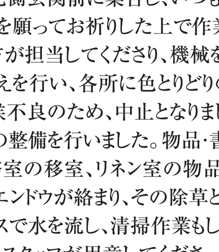
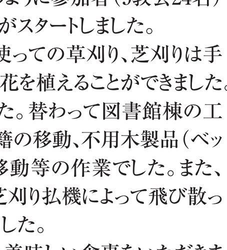
【個人】[illegible]

【団体】[illegible]

【ネヘミヤ献金】[illegible]

2016年度 第一回『春の園芸ボランティア』

後援会書記・横浜教会　菅野　望

前日からの雨の残る中、春の陽を浴びることはできませんでしたが、2016年度最初の園芸ボランティアが、4月5日（火）に行われました。

今回は、翌日（6日）の入学式を前に気持ち良く新入生を迎えるための活動でした。
教団のネヘミヤプロジェクトにより新装された本館北側玄関前に集合し、いつものように参加者（9教会24名）の点呼、作業手順の確認、注意事項があり、安全を願ってお祈りした上で作業がスタートしました。

旧寮、食堂前の花壇の草取りは、主にご婦人方が担当してくださり、機械を使っての草刈り、芝刈りは手慣れた方が行い、草取りのあと、花壇の花植え替えを行い、各所に色とりどりの花を植えることができました。

一方、当初予定していた樹木の枝払いは、天候不良のため、中止となりました。替わって図書館棟の工事に向けて、新寮を代替利用するためのスペースの整備を行いました。物品・書籍の移動、不用木製品（ベッド・洋服箪笥）の解体そして私たちの後援会事務室の移室、リネン室の物品移動等の作業でした。また、旧寮女子寮前庭のエアコンの室外機に、カラスノエンドウが絡まり、その除草と芝刈り払機によって飛び散った泥が建物の壁面にこびりつき、その汚れをホースで水を流し、清掃作業もしました。

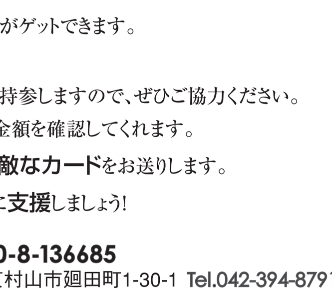
昼食は、いつものように修養生と一緒にキッチンスタッフが用意してくださった美味しい食事をいただきました。また、今春、入学される6名の新入生（氏名のみ）の紹介もあり、よき交わりの時となりました。

本館北側玄関前のフロア、スロープは、ボランティアの方々の泥の付いた足跡が、もろにつくため、水で流す作業を最後に本日の活動は終了しました。4月6日の入学式が天候に恵まれますように祈りつつ解散しました。ご参加くださった皆さんの尊いご奉仕に感謝します。

次回は、6月22日（水）と、7月13日（水）です。初めての方、大歓迎！　皆さんのご参加とご協力をお願いします。

11月3日（木）・学院デーのご案内

後援会会長　遠藤　正治



つもり献金で、お花をプレゼント！

後援会を支えるために**身近にできる献金**をご存知ですか？

それは**「つもり献金」**です。

毎日の生活で何気なく口にする一杯のコーヒー、ジュース、また、おやつのケーキやアイス･･･。

もし一杯のコーヒーを**飲んだつもり**で、週に200円を入れていただければ、年に1万円ほどになります。

500人がご協力くだされば500万円になります。**「一杯のつもり」が大きく大きく積もり**ます。

また11月の学院デーにつもり献金箱を持参すると**素敵な花鉢**がゲットできます。

2015年には22名の方が持参してくださいました。

今年も「つもり献金箱」を各地の聖会や修養生が派遣される教会に持参しますので、ぜひご協力ください。

学院デーに来られない方は郵便局に容器ごと持参すれば、郵便局が金額を確認してくれます。

それを指定の振り替え用紙で送金してください。**み言葉の入った素敵なカード**をお送りします。

皆様、**「つもり献金」**でも東京聖書学院をさらに**支援**しましょう！

支えます、献げます、祈ります。
東京聖書学院後援会　振替・00170-8-136685
〒189-8512　東村山市廻田町1-30-1　Tel.042-394-8791